

議会改革検討会議報告書

(案)

令和2年3月 日

神奈川県議会 議会改革検討会議

当会議において、音声文字化及び議員控室のあり方について検討した結果を、次のとおり報告する。

1 趣旨

「音声文字化」については、近年の技術進歩を踏まえ、県内においても、川崎市議会の本会議で音声文字化が実施され、傍聴席のモニターに表示するようになったことなど、導入に向けた動きが進みつつある。

また、「議員控室のあり方」については、現在、任期途中で会派構成に変動があった場合は、できる限り工事を実施しないこととしているが、選挙の結果を受けて会派構成が定まる改選期については、議員控室の改修工事を行うことを例としている。

しかし、現状の控室は、簡易に間仕切り等を変えられる構造となっておらず、改修にあたっては、常に、一定規模以上の工事が必要となっている。

こうした状況を踏まえ、令和元年10月15日の団長会において、議長から当会議への検討が付議されたところであり、これらについて検討した結果、次のとおり結論を得たので報告する。

2 検討結果

(1) 音声文字化について

ア 方向性

障害などにより音声聞き取りにくい傍聴者の利便性向上のため、近年の技術進歩や、先進自治体における導入の状況を踏まえ、本県議会においても、音声文字化について試行を始める。

なお、当面は、障害などにより音声聞き取りにくい傍聴者に向けた音声文字化を目的とするが、運用状況や技術進歩等を慎重に見極めつつ、最終的には、審議のための補助資料及び会議録作製にも活用していく。

イ 実施に当たっての考え方

導入コスト、運用コストを考慮した上で、現時点で、最適と思われる機器構成での試行を図ることとする。

ウ 実施時期及び試行会議

令和2年第3回定例会中又は令和3年第1回定例会の本会議代表質問からの試行を目指す。

(2) 議員控室のあり方について

ア 方向性

改選期の会派構成に応じた議員控室の整備は、壁を壊し、一から作り直すなど、一定規模以上の工事が必要となっている。

しかしながら、費用負担の低減や工期短縮のためには、できるだけ、控室の整備を合理化し、工事規模を縮小する必要がある。

そこで、今後、改選期における議員控室の整備については、例えば可動壁や簡易壁を導入するなど、長期的には費用の低減等が見込める合理的な方法で実施していくこととする。

イ 実施に当たっての考え方

従前どおり、会派所属議員数による面積按分の考え方を基本とするが、この考え方のみによることなく、新庁舎の構造、照明、換気、空調、消防設備等の状況を十分に踏まえたうえで、整備を行うものとする。

ウ 実施時期

次期改選期（令和5年）からの実施を目指す。

3 検討経過

○ 令和元年12月4日

- (1) 音声文字化について
- (2) 議員控室のあり方について

以上について、次の資料を基に協議検討した。

資料1 川崎市議会音声文字化記者発表資料及び傍聴者への御案内

資料2 議員控室の直近工事状況等について

○ 令和元年12月18日

- (1) 音声文字化について
- (2) 議員控室のあり方について

以上について、次の資料を基に協議検討した。

資料1 福井県議会の同時文字表示(音声文字化)について 及び
会議録作製における音声認識システムの利用について

資料2 控室改修工事等の状況について

○ 令和2年2月12日

- (1) 音声文字化について
- (2) 議員控室のあり方について

以上について、まず、(1)について、UDトークを用いたデモを実施し、音声文字化の実際を確認し、(2)について資料を基に協議検討した。

資料 議員控室のあり方(図面)

○ 令和2年2月25日

- (1) 音声文字化について
- (2) 議員控室のあり方について

以上について、次の資料を基に協議検討し、今までの協議をもとに、座長より、資料3により今後の基本的な方向性が示され、各会派で持ち帰り検討。

資料1 音声の即時文字化を行うソフトウェアについて

資料2 議員控室のあり方(図面)

資料3 音声文字化及び議員控室のあり方に係る今後の基本的な方向性等について(案)

○ 令和2年3月25日

- (1) 音声文字化について
- (2) 議員控室のあり方について

以上に係る報告書案について協議。